

見附市地域公共交通計画
抜粋版

令和 2 年 12 月

見附市地域公共交通活性化協議会

4.2 事業の取組み状況

表 第1次見附市地域公共交通網形成計画の事業取組み状況

目標	事業内容	実施主体	取組み状況		
1 効率的で 利便性の 高い公共 交通網の 形成	1.市街地	①コミュニティバスの利便性向上	見附市、越後交通(株) ・小型低床バスを計7台導入(H28年度:1台、R1年度:1台) ・バス車庫整備により運行時間短縮(H29年度)【運行間隔】H28年度:35.9分、R2年度:28.9分	○	
	2.周辺地域	②路線バスの利便性向上	見附市、越後交通(株)	・ダイヤ改正時等に接続状況についてバス事業者と協議を実施し、ダイヤに反映(H28年度~継続)	○
		③デマンド型乗合タクシーの利便性向上	見附市、見附タクシー協議会	・新たに2地域で運行開始(H28年10月:明晶町、R1年10月:杉澤地域ほか4集落) ・ほっとびあを追加(H29年8月) ・1日5往復⇒6往復に増便(H30年9月)	○
		④コミュニティワゴンの活用	見附市、地域コミュニティ	・新規結成コミュニティ2団体にコミュニティワゴンを貸与(H28年度:「まちなか東コミュニティ」1台、R1年度:「まちなか西コミュニティ」1台)	○
	3.広域	⑤路線バスの利便性向上	見附市、越後交通(株)	・ダイヤ改正時等に接続状況についてバス事業者と協議を実施し、ダイヤに反映(H28年度~継続) ・下塩線が廃止(H30年度:事前協議、R1年10月:廃止)	○
		⑥首都圏へのアクセス向上	見附市、越後交通(株)、見附タクシー協議会	・新幹線との接続を意識したデマンド型交通について、市内タクシー事業者と事業化を検討(H28年度) ・高速バス停留所について検討(H29年度~継続) ・今後は、現在運行している公共交通の乗継ぎ利便性の向上による広域のアクセス向上の取組みが必要である	▲
	4.連携強化	⑦公共交通の連携強化	見附市、越後交通(株)、見附タクシー協議会、JR東日本、地域コミュニティ	・バス事業者と各種公共交通の接続状況について確認し、ダイヤに反映(H28年度~継続)	○
		⑧交通結節機能の強化	見附市、越後交通(株)、見附タクシー協議会、地域コミュニティ	・H28年度に多機能型待合所について選定作業を行ったが、設置スペースがないことに加え、将来的な運行ルートが変更する可能性がある為保留中 ・今後は、交通結節点への公共交通の集積、接続改善による機能強化の取組みが必要である	▲
		⑨乗継ぎ利便性の向上	見附市、越後交通(株)、見附タクシー協議会	・利用促進策について関係機関との協議を実施(H28年度、H30年度)	○
2 公共交通 の魅力 を高める 環境づく り	1.利用しやすい施設の整備	⑩低床車両導入の促進	見附市、越後交通(株) ・小型低床バスを計7台導入(H28年度:1台、R1年度:1台)	○	
		⑪バス車両の車外ラッピング	見附市、越後交通(株) ・導入車両に車外ラッピングを実施(H28年度) ・コミュニティバスの車内ラッピングを実施(H30年度:3回、R1年度:6回) ・SDGsマークの車外ラッピングを実施(R1年度)	○	
		⑫バス待合環境の改善	見附市、越後交通(株)、地域 ・路線バス運行地域の待合環境改善に対する県内補助制度や、路線バス停の町内管理状況について調査を実施(H28年度~H29年度) ・コミュニティバスシェルターを整備(H28年度:8か所、H29年度:ほっとびあ前(上下)2か所、H30年度:メディカルパーク東1か所) ・バスシェルター設置が難しいバス停には、木製ベンチを設置(25基設置済み) ・バス待合環境は概ね整備が完了	○	
		⑬コミュニティバス車庫の整備	見附市、越後交通(株) ・車庫整備を実施(H28年度) ・消雪パイプ、外周フェンス、バスシェルターを整備(H29年度~H30年度) ・コミュニティバス車庫は整備が完了	○	
		⑭見附駅周辺整備	見附市、越後交通(株)、見附タクシー協議会、JR東日本 ・見附駅周辺まちづくり協議会を開催(H28年度~継続) ・駅周辺整備基本計画書を策定し、駅周辺整備事業の全体的なスケジュールを確認(H30年度) ・R2年度より着工予定	○	
		⑮自転車利用環境の整備	見附市 ・自転車ネットワーク計画を策定(H28年度) ・計画に基づき自転車レーンを整備(H28年度:見附駅~市道十二の木線の約1.5キロ、H29年度:見附駅西口~今町柳橋線の約1.8キロ)	○	
		⑯レンタサイクルの利便性向上	見附市 ・老朽自転車の入替(H28年度) ・図書館を新規サイクルステーションとして整備(H29年7月) ・専用アプリで自転車が借りられる「PIPPA」を導入予定(R2年度:試行運用、R3年度:実装)	○	
	2.利用しやすい情報提供の整備	⑰利用しやすい情報提供の整備	見附市、越後交通(株)、見附タクシー協議会、JR東日本 ・バス停におけるルート図、時刻表の更新(H28年度~継続) ・バス車両のルート掲示の拡大(H29年度) ・携帯用時刻表の配布(R1年10月)、コミュニティバスの位置情報のWeb配信(H23年9月~継続)	○	
3 システ ムづく り	1.自家用車に過度に依存しない交通行動の促進	⑱公共交通に関するPR、モビリティマネジメントの推進	見附市、越後交通(株)、見附タクシー協議会、JR東日本 ・実態調査を実施(H28年度) ・広報、コミュニティかわら版によるPR活動(H28年度~継続) ・コミュニティバスの車内ラッピングを実施(H30年度:3回、R1年度:6回)	○	
		⑲観光施設・イベントとの連携	見附市、越後交通(株) ・見附まつり、大風合戦時に利用キャンペーンを実施したほか、見附まつり時には臨時増便を運行(H28年度~継続) ・「みつけスタンプラリー-BINGO」を実施し、コミュニティバスを利用したまちあるきを促進(R1年度)	○	
	2.運賃収入以外の収入源の確保	⑳バス車内・バス停での広告掲載	見附市、越後交通(株) ・HP、車内広告(H28年度のみ)による掲載呼びかけを実施(H28年度~継続) 【広告収入】H28年度:69,156円、H29年度:78,258円、H30年度:113,468円、R1年度:147,800円 ・時刻表の広告掲載を実施(R1年度~継続)【時刻表の広告収入】R1年度:200,000円	○	

※取組み状況については、実際に取組み実績がある事業は○、検討や情報収集に留まった事業は▲とした。

5.1 公共交通の課題

第2章 地域および公共交通の現状、第3章 公共交通の利用実態と利用者の意向、第4章 第1次見附市地域公共交通網形成計画の評価を踏まえて、公共交通の課題を以下に整理します。

		地域の現状	公共交通の現状	アンケート調査	第1次計画の評価	総括
市全域		<ul style="list-style-type: none"> 人口は減少傾向にある。 高齢者の人口は増加しており、高齢化が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の人口カバー率は92.6%。 	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少などの社会状況の変化を見据えた、持続可能な運行体制の整備が必要。 誰でも安心・安全に利用できる環境整備が必要。
		<ul style="list-style-type: none"> 1世帯あたりの自動車保有台数は約2台で、自動車が主な移動手段である。 高齢の運転免許保有者が増加している。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の利用割合は、買い物や通院では約80%と高く、公共交通の利用割合は低い。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 自動車から公共交通への転換の促進が必要。 自動車を使用できなくても自由に移動できる公共交通網の形成が必要。
市街地	コミュニティバス	<ul style="list-style-type: none"> 人口および行政施設や商業施設は、見附地区や今町地区南部に集積している。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスの利用者数は年々増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスの利用者は、23%が運行間隔の短縮を希望し、73%が現状維持を希望。 定時性向上の要望や、運行内容をまとめたチラシの内容改善の要望が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 増便により、運行間隔は年々短縮している。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスは、運行間隔短縮などの運行内容改善により、さらなる利用増の可能性がある。 定時性の改善が必要。 コミュニティバスについて、分かりやすい情報提供が必要。
	レンタサイクル	<ul style="list-style-type: none"> 自転車走行空間や通行車両誘導看板の整備を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> レンタサイクルの利用者数は増加傾向にある。 貸出施設に管理人等がいる時間しか利用できない。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 自転車走行レーンやレンタサイクルステーションの整備が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 無人で貸出、返却可能なシステムの導入が必要。 利用環境整備の継続が必要。
周辺地域	デマンド型乗合タクシー	<ul style="list-style-type: none"> 市西部や刈谷田川沿いには集落が点在している。 	<ul style="list-style-type: none"> デマンド型乗合タクシーの利用者数は増加傾向。 バス路線廃止などを受け、平成28年度以降、新たに2地域で運行開始。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者は、運行時価の拡大や市街地停留所の増設、増便の要望が多い。 事前登録をしていない人が93%、運行内容を知らない人が43%と多い。 運行内容をまとめたチラシの内容改善の要望が多い。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 運行地域が拡大しており、効率的で持続可能な運行内容への見直しが必要。 デマンド型乗合タクシーの分かりやすい情報提供、利用促進が必要。
	路線バス	—	<ul style="list-style-type: none"> 路線バスの利用者数は減少傾向。 R元年10月に下塩線廃止。 コミュニティバスと接続する交通結節点機能の強化が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 増便や運行時間の拡大など、利便性向上についての要望が多い。 	—	<ul style="list-style-type: none"> バス路線維持のために、ニーズに合わせた運行内容の改善や利用促進が必要。 コミュニティバスとの接続改善、結節点機能強化が必要。
	コミュニティ	—	<ul style="list-style-type: none"> 各地域と市街地をつなぐ定期運行等に活用。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 市内全コミュニティに車両を貸与。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民のニーズに対応した更なる活用が必要。
広域	路線バス	<ul style="list-style-type: none"> 長岡市や三条市への通勤通学者が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 隣接市を結ぶ重要な路線だが、利用者数は減少傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> 通勤通学者のうち39%は市外へ通っている。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 市外への通勤通学者の移動手段の確保が必要。
	鉄道	<ul style="list-style-type: none"> 通勤通学時間帯の見附駅での送迎による混雑が発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道の利用者数は横ばい。 見附駅周辺整備が予定されている。 	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 見附駅の利便性向上に向けた駅周辺整備の継続。

課題

1.交通手段の連携強化、ネットワーク形成

- 各公共交通の連携を進め、便利で利用しやすい公共交通ネットワークを形成する必要があります。

2.地域特性に合わせた効率的な公共交通

- 地域の状況や、市民のニーズに合わせた運行により、利便性を高める必要があります。
- 効率的で、持続可能な公共交通網を形成する必要があります。

3.安心・安全かつ快適な利用環境の確保

- バリアフリー化などにより、誰もが安心・安全かつ快適に利用できる環境を整備する必要があります。
- 分かりやすい情報提供が必要です。

4.地域活性化との連携

- 市内の観光・交流施設やイベント等と連携し、公共交通を利用した外出機会を創出する必要があります。

5.持続可能な運営体制の整備

- 公共交通を長期的に持続可能なものとするため、市民への利用促進を行う必要があります。
- 運賃収入以外の収入源の確保が必要です。

6.1 課題・目標・事業の対応関係

前章で設定した目標を達成するために、以下の15の事業に取り組みます。



